

カリキュラム Curriculum	文学研究科MC		ナンバリング Numbering	
番号 Number	科目種別 / 学科目 Course title	転用科目 Substitute for		種別 Subject type
611	ドイツ語学演習 <German Linguistics>			演習
専攻 Major	担当教員 Instructor(s)		開講期 Semester	開講時間帯 Day and time
ドイツ文学	成田 克史(NARITA Katsufumi)		前期	火曜：3限
講義題目 Title	ドイツ語表現法			
単位 Credit	2			
備考 Others				
履修条件 注意事項 Requirements for registration	言語文化科目のドイツ語 1～4 を修得済みであること。			
授業の目的 Purpose	外国語の習得とは、端的には、その言語で「何を」「どう」言うかがわかるようになるということである。その際、「何を」言うかが明確でなければならない。私たちがよく知る日本の日常をテーマにすれば、あいまいさをほぼなくすることができる。日本特有の事象をドイツ語で言い表すための工夫を重ねることで、より高いドイツ語表現力を身に着けることを目指す。			
授業の内容 授業の方法 Content	<p>日本のことについてドイツ人に手紙を書くという設定でドイツ語の文章を作る練習を行う。予習として準備したドイツ語の文章を、授業では口頭で発表する。表現上の問題については、教員からの解説に従い、修正する。指名されていない学生は、答えをよく聞いて自分の解答を添削する。</p> <p>授業計画 第2回～第14回においては、それぞれのテーマに重点をおいた表現練習を行う。</p> <p>第1回：手順の確認 第2回：感謝の表し方 第3回：和室 第4回：学校制度 第5回：梅雨 第6回：誕生日 第7回：休暇の過ごし方 第8回：食事 第9回：ドイツ留学と家庭滞在 第10回：学生寮 第11回：クラブ活動 第12回：紅葉とハイキング 第13回：寝床 第14回：クリスマスと正月 第15回：まとめ</p>			
教科書 テキスト Textbooks	シュタインベルグ他著『日本からの手紙 - ドイツ語表現練習教材 - 』（同学社、2002年）			
参考書 References	中山豊著『中級ドイツ文法: 基礎から応用まで』（白水社、2007年）			
受講生の 自宅学習 Preparation and review	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回平均15課題をドイツ語で表現する。 2. 模範解答の音声を聞いて添削しておく。 3. 授業で修正されたドイツ語文章を清書して残す。 			
成績評価の 方法と基準 Evaluation	定期試験は行わず、毎回の各人のドイツ語表現の巧みさを判定し、その記録を基に成績判定を行う。			

連絡方法
Contact
information

メールアドレス : k46392a@cc.nagoya-u.ac.jp
研究室 : 国際開発研究科棟 1 階 1 1 1 号室